

8/15
(火)

受け継がれるお盆の伝統行事！

市指定無形民俗文化財 牟田ジャンガラ（星鹿町牟田地区）・星鹿ジャンガラ（星鹿町星鹿地区）



牟田ジャンガラは、明治の中頃まで行われていた御厨ジャンガラに由来し、疫病退散、五穀豊穡を祈願する子どもたちの行事として受け継がれています。

「^{のぼり}幟さし」の別名のとおり、権兵衛様と御厨様のお墓の周りをまわった後「ハリナムホッポンジャホイホイホイ」の掛け声に合わせて幟の根本で墓を突くことを3回繰り返します。

今年は、4人の子どもたちが参加し、地域住民に習いながら伝統行事を体験しました。



星鹿ジャンガラは、疫病退散、豊漁・豊作を祈願し、先祖の供養を行う盆行事です。以前は、神園、中浦、北浦、西浦の4組それぞれが^{おおのぼり}大幟と^{このぼり}小幟を立てて浄土寺まで道行きを行っていました。

この日、大人たちは大幟を、子どもたちは小幟を担いで地区内を練り歩き、つんぼう様の墓前を掛け声をかけながら幟で突いた後、浄土寺境内に到着し、地域住民が見守る中、元気に掛け声をかけていました。

8/20
(日)

こわ〜いおはなし会、青島でも

まつうら図書館きらきら塾（森三佐子会長）



図書館を中心に絵本の読み聞かせや、季節にちなんだ活動を行う同団体。毎年夏休み期間中に行っている「こわ〜いおはなし会」を青島で行ってほしいとの声を受けて出張おはなし会を開催しました。

当日は、開催を待ち望んだ子どもたちなど18人が参加。お化けになった会員のこわいおはなしで涼くなった後、ヨーヨー釣りやお面づくりなどを楽しみ、子どもたちの笑顔と驚く声が会場内に溢れていました。

8/16
(水)

松浦出身高校生がこども塾

学生団体 まつら部（船原拓朗代表）



高校進学で松浦を離れたことをきっかけに、ふるさとのあたたかさを実感。ふるさとの恩返しをし、松浦を愛する人（matsulove）の輪を広げていきたいと御厨小・中学校出身の高校生を中心に今年7月に発足した同団体。

団体発足後初めての取り組みとして、小学生に学習を教える「こども塾」を御厨小学校で行いました。参加した御厨小学校の児童17人は、高校生と会話をしながら学習を楽しみ、「今日はありがとう、またやってね」と高校生に伝える姿に、あたたかさの輪が広がるのを感じました。